

品質工学 ～QCDを同時実現する開発手法～

品質工学とは、将来起こるかもしれないトラブルを未然に防いで、製品が引き起こす様々な損失を最小化することを目的とする、汎用性の高い技術方法論です。安定した設計・製造技術を効率よく開発する手法として、様々な技術分野や開発プロセスで活用され大きな成果をあげています。

今回、平成23年1月13日に開催しました「品質工学公開講演会」の報告と、平成23年度の公開講演会及び京都品質工学研究会についてご案内します。

品質工学公開講演会(1月13日)の報告

「技術者の思考力を鍛える ～全体最適の技術思考力を鍛える品質工学～」

品質工学会 名誉会員 原和彦氏

QCD(品質・コスト・納期)の改善を一度に実現できる「一石三鳥」の技術開発法が品質工学であり、これを実現するためには、技術者が「全体最適」の思考力を身に付け鍛える必要があることをお話いただきました。技術者が全体最適の思考力を身に付けるには、技術者に自由を持たせること、そして「問題が起こってから対策する(=逆観)」現状から、「問題が起こらない開発をする(=順観)」仕事の進め方に変えることが重要、とのお話があり感銘を受けました。また、品質は「不良率(不良品の割合)」ではなく「目標からのズレ量(=損失関数)」で評価すること、機能(モノの働き)を重視した開発など、技術者にとって大切な考え方についてお話をいただき、技術開発について学び考える良い機会となりました。



▲原和彦氏ご講演

「マツダにおける品質工学への取り組み」

マツダ株式会社 常務執行役員 開発担当補佐(もの造り革新担当) 龍田康登氏

マツダ株式会社の品質工学の取り組みについて、黎明期から定着・拡大期を経て、現在の発展期に至った経緯とその組織的展開について、技術トップとして品質工学の普及・展開を推進した視点と経験に基づいたお話をいただきました。「人をつくるのが、企業の仕事」との考えの下、「共育」の語を掲げて、本質理解と実践重視の品質工学で数々の成果を得られた経緯と技術トップの想いに感嘆しました。紹介された事例はいずれも「単純なエネルギー関係」で機能を表現し技術開発されていた点に、本質理解を追求されているマツダの取り組み姿勢が垣間見られました。「スピード開発を求められたら、品質工学を使うしかない」との言葉が印象に残っています。



▲龍田康登氏ご講演

平成23年度 品質工学公開講演会(5月)のご案内

中小企業の経営者、管理者、開発推進者向けに、品質工学を活用した技術開発・製品開発の革新についての公開講演会を開催します。奮ってご参加ください。

テーマ：「**技術開発・製品開発の革新と品質工学**」

内容：講演(1)：「**三菱電機の技術開発・製品開発と品質工学**」

三菱電機(株) 先端技術総合研究所 品質工学センター長 春名一志氏

講演(2)：「**外部研究会の効果的な活用—技術人材の育成と開発手法**」

コニカミノルタテクノロジーセンター(株) 企画部 開発技術支援グループ グループリーダー 芝野広志氏

日時：平成23年5月20日(金) 13時30分～17時00分

場所：京都府産業支援センター 5階研修室

対象：企業の経営者・経営層、管理者、開発推進者

参加料：無料

定員：60名

平成23年度 京都品質工学研究会の会員を募集します!

京都品質工学研究会では、品質工学を活用した開発業務の革新・効率化を目指す企業が集まり、品質工学など開発スキルの相互学習、実際の開発課題への適用についてディスカッションを重ねています。初心者向けの教育支援が充実している点も、京都品質工学研究会の特徴の一つです。

技術開発・製品開発の改善・効率化を目指す方々のご参加をお待ちしております。

<京都品質工学研究会 平成23年度活動計画>

活動期間：平成23年6月～平成24年3月

H23年度重点事項：「会員の成果創出を支援する」

活動内容：①定例会(毎月第2金曜の午後、ただし6月は6月9日(木))

②基礎学習会(6月23日(木)。新規会員・初心者向け。)

③講師による個別課題相談(各定例会開催日の午前)

講師：各定例会に外部講師を招聘します(コニカミノルタテクノロジーセンター(株) 芝野広志氏、(有)アイテックインターナショナル 中野恵司氏らを招聘予定)

年会費：20,000円(継続会員は15,000円)

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
基盤技術課 機械設計・加工担当

TEL:075-315-8633 FAX:075-315-9497

E-mail:qe@mtc.pref.kyoto.lg.jp